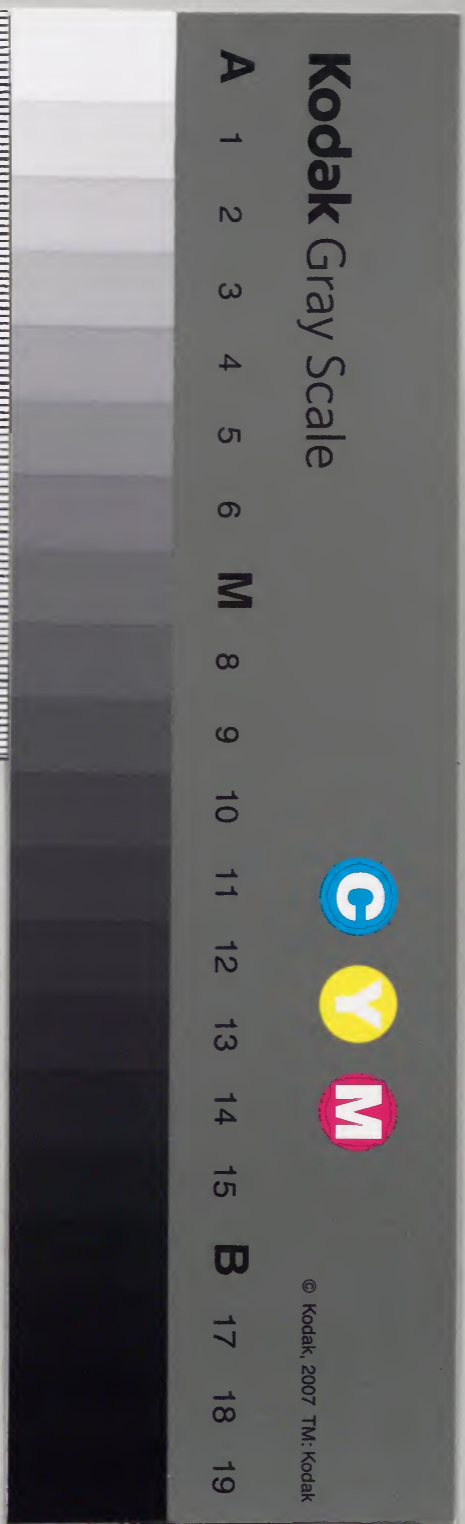


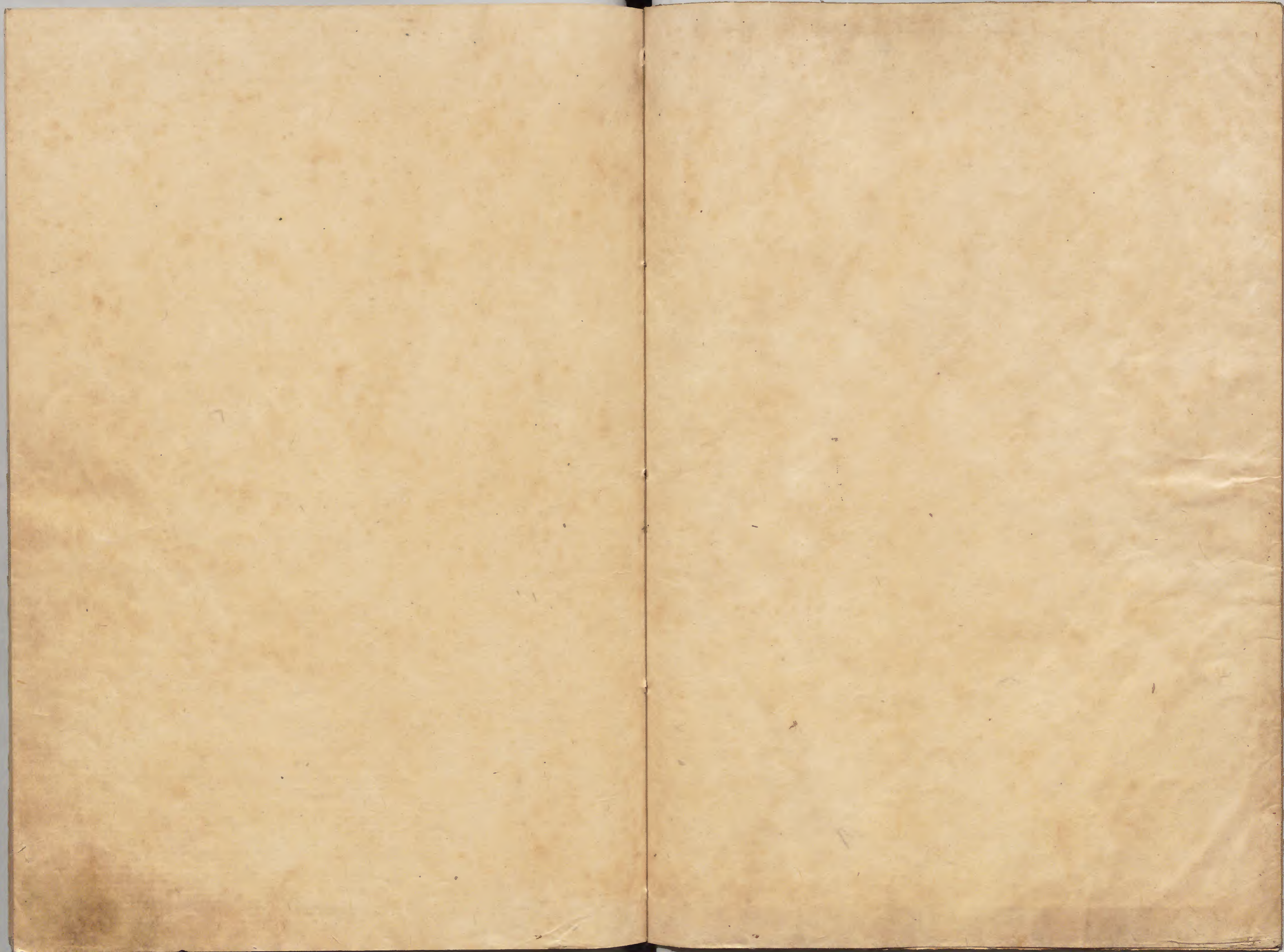
39

寛永諸家譜

清和源氏庚八冊之内
義光流之内武田流

内閣文庫	
番號	和 20199
冊數	186 (39)
函號	76 1





河窪

寛永諸家系圖傳

清和源氏

庚三

義光流

河窪

武田彦流

淺草文庫

● 義光

新孫之郎

刑部丞

甲斐守 後五位上

經基王

より

けし

此村

礼

あし 日旗

指をと相傳寸

家傳といはく後冷泉院永承年中父
頼義朝臣勅とらけたまはりて安倍貞
任致任と追伐の時先任者此社小指
して朝敵平伏の祈誓とらへす時
神籠河りく旗一流禮一領とたまはる
是より此を神功皇后に二物とらへて
韓をたゞげく海國の後任者明神
標津ゆゑ鎮坐の時室殿に奉納とら
ふなり今靈神の感應よりて頼義

是をたゞらる事ハ誠ニ希代の名譽也
義光末子よりとらへども父此鐘屯
よりて是をお傳し義光又義清にお傳
寸高きより武田代に此室物より旗は
白地に文あり鐘は菱の紋河りく是小
よりく菱とらへ家の紋とす

義業うしろ

刑部太郎 佐竹の祖

義清 よしひら

刑部之郎 武田冠者 たけだのくろんぶ

射礼楮を相傳す やまひたてり

甲斐守市川の庄に配てしむる後回 あゐのくにいちのうら

國武田小任す是よりして武田の冠者 くにたけだのこざと

と号す なづ

清光 きよみつ

黒源左 逸見冠者 くろげんだ 逸見のくろんぶ

射礼楮をお傳 やまひたてり

光忠 みつただ

逸見太郎 上総外 逸見の 上総の外

信義 のぶよし

武田太郎 駿河守

射礼楮をお傳

孝光 たかみつ

かく英次郎 信濃守 英次郎の 信濃守

光朝みつとも

光定みつさだ

秋山あきやま太郎

小太郎

長清ながしみず

小笠原おがさわら次郎

光行みつゆき

南みなみ於お之の郎

光経みつね

如ごと美みの田の郎

光俊みつとし

於と曾う五の郎

長経ながつね

太郎

清胤しみずのぶ

河原かわら次郎

河波かわなみ五の郎

阿あ一いち

横根よこね別わか当たう

長光 ながみつ

奴白守郎 ぬしろしろう

長家 ながいえ

小曲五郎 こまがごろう

内長 うちなが

伴時六郎 ばんときむろ

船長 ふねなが

大升七郎 おおかしななせう

朝光 あさみつ

中系九郎 なかつづみく

白草 しろくさ

仍長 なほなが

小菟十郎 こうとじゅうせう

清時 しみよ

鳴海与一 なるみよ

長隆 ながたか

大菟与次 おおかとよじ

園清 のぞみ

走湯山の禰師 そうたうやまのねし

義定 よしつら

安田之郎 やすだ

幸三郎

清隆 きよたか

平井三郎 ひらゐ

隆義 たかし

二宮太郎 にのみや

隆頼 たかより

平井次郎 ひらゐ

隆時 たかし

出孫三郎 いそ

长義 ながよし

河内五郎 かつら

仍義 なりよし

奈胡十郎 なご

義继 よしつぐ

太郎

義俊

二郎

鼻和

行信

二郎

浅原

信继

弥太郎

米倉

義成

浅利子一

源亨

上勇祿

信清

奴白与三

长光

忠頼

一條次郎

坂东の耳利侍惣共
忠頼

魚信いしづみ

為此先祖あり

板垣之郎いとかき

有義りうぎ

逸見之郎いづみ

武田三浦尉

信光

五郎 伊豆守

神く甲斐守石和庄いこのやとなまらるこし

よりて石和五郎と号す

後日武田の魚信いしづみとありと村礼楯むらねと
お傳す

朝信あさのぶ

太郎 黒坂の先祖くろさか

信忠

忍之郎しのぶ

信政

石和いしわ小五郎 伊守守 安藝國あきのくにと領す

信也のぶ なが

一條六郎いちじょう りくご

甲斐守かいしゅ

楮本相傳しゅほん そうでん

光家みつ け

太郎たろう

義也よしか

三郎さんご

頼也より なが

四郎しご

持丸もちまる

信經のぶ ね

八郎はちご

楮本相傳しゅほん そうでん

信行のぶ ぎ

高島たかしま

時信とき のぶ

甲斐守かいしゅ

武川組むかわぐみ

佛阿と号寸ぶつあ とごうすん

義行 よしゆき

与次 东条の祖 楮之相傳 とらじょうのそ しのぎのまへ

信隆 のぶたか

一文七郎 駿河守 村礼相傳 むらねのまへ
尾張和泉伊勢越前守 大目守 おわりわづないせえちぜんのかみ だいめのかみ

正隆 まさたか

一宮太郎

時隆 ときたか

信賢 のぶけん

上条之郎 駿河守 南腹の嫡子 かみじょうのちやくし
信隆の次子 信隆と信隆と のぶたかのつぎこ しのぶとしのぶと
安藝守 信隆 あきののかみ のぶたか

春嗣 はるつぐ

駿河守

信平たけひら

八郎

早川はやがわ

信基たけもと

九郎

岩淵いわぶち

信状たけじょう

菊王きくおう 禪作ぜんさく

殖本えきもとの先祖せんぞ

光みつ 殖むす

十郎

園井そののゐ

塙坪はたけらの先祖せんぞ

貞經さだつと

五郎

信經のぶつと

孫五郎

信時

五郎二郎

伊豫守

政綱まさつな

五良之郎

信盛たけもり

五郎

豹井ひょうのゐ

岩崎いわさき

政長まさおさ

下系五郎七郎しもがへごろうしちろう

信泰のぶやす

信綱のぶつな

時綱ときつな

六郎

伊豫守

信實のぶみこと

時平ときひら

次郎

政頼まさたより

三郎

貞光さだみつ

与次

光時みつとき

又五郎

七郎

信宗 のぶむね

孫六 伊豫守 安藝の守護

信武 のぶたけ

孫六 陸奥守 快理亮 左馬頭

指三 到来 是と下持す

安藝甲斐守の守護

了付 尻頭人 新子載集の作者

法名 雪山照云 清浄真院と号す

信成 のぶなり

次郎 刑部大輔

甲斐守の守護

法名 雪宍光云 继統院と号す

信明 のぶあき

陸奥守 大井と号す

春明 はるあき

彈正少弼

信丁 のぶちやう

大和守

北條きたうぢと号寸

明仲 あきちゆう

光善寺 こうぜんじ

祥雲菴 しやううんあん

信弘 のぶひろ

上総介

高合たかあひと号寸

信直 のぶちか

高太郎

隆祥寺 りゆうしやうじ

昌義 まさよし

中務少輔 なかつむのすけ

伊豆守

信家 のぶけ

次郎 彈正少弼

高英

奈良西大寺の僧

氏信

伊豆守 安藝守の守護

信在

信守

伊豆守

伊豆守

云信

長庫頭 薩摩守

義武

法名心溪誠云系頼寺と号す

四郎 信濃守 穴山と号す

武明

長幼少輔 法名月意道明

満信

五郎 長庫頭

信春 のぶ 春

之郎 隆興寺 甲斐國の守護

けとく 白鷹此記り

指石到來 法名花峯春公護國院

と号寸

基信 もと 信

四郎

武春 たけ 春

五郎 下桑と号寸 伊豆守春子

と号寸

武續 たけ 不

十良 桑原と号寸

信通 のぶ 通

信明 のぶ 明

出羽守

出羽守

海春 うみ 春

六 布施

頼武よりたけ

布施ふせ 法名宗山超公しやうざんしやうこう

海朝うみあさ

右馬助みぎうますけ 法名季勝最云きしかつさい云

大慶和尚たいけいわうしやう

慈恩寺じおんじ

信清のぶきよ

安藝寺あゑじ 法名天用長袖寺てんようちやうそでうじと号すとごうす

信満のぶみち

二郎にじやう 安藝寺あゑじ 指石相傳さしいしあひでん

安藝あゑ 甲斐かい 西にし 此こゝ 与よ 護ご

應永おうえい 四年しよんねん 二月六日にがつにじふろくにち 甲斐かい 西にし 本もと 賊ぞく

山やま 栴せん 雲うん 寺じ 一ひと くく 日ひ 害がい 法名明菴めいあん

道光だうかう 長松寺ちやうそうじ と号すとごうす

成春

三郎 刑部大輔 吉田と号す

判髪して性光と号す

海春

三郎 修理大史 穴山と号す

信继

六郎 伊豆守 下桑と号す

信久

七郎 市船と号す

法阿弥陀仏

一蓮寺

法久

観音寺の僧

信久

北海と号す 真禪院

信元

長船少輔 法名 英山と号す

信重

三郎 刑部大輔

楯之相續村礼たてのしりぞく 小末こまへ

宝徳二年十一月二十四日卒たうとく

法名功嶽成云成就院こうたけと号す

信長

八郎 右了助 上総守かみと号す

信康

宗平

長庫助 け代けしろの江草小狐えくさこぎよの太刀相傳たちあひでん
法名月叟げつそう 永正寺えいせいと号す

仁勝寺にしょう

信系

今井孫六いまい 左了助

信純のぶ

信玄のぶ

長庫助

八郎 涼岳りやうがくと号す

信賢しんけん

官内大補

巨勢村こせむらと号寸

信廣しんこう

治部少補

倉科くらがと号寸

信安しんあん

民部少補

山官やまかんと号寸

信守しんしゅ

弥三郎

刑部大補

信外しんがい

村礼むられい楮たがひ云いと相續あひつぎ寸 甲斐かゝい此こゝと号寸
享徳きやうとく四年五月十一日卒すまひ寸 法名
勇山ゆうざん健けん云い 德澤とくさくと号寸

刑部少補

穴山あなやまと号寸

法名英中えいちゆう 天瑞寺てんずいじと号寸

信賤しんせん

刑部大補

法名忠翁ちゆうおう道義だうぎ

信永ひさ

宗九郎

信亮たか

刑部大補

信風と

甲斐守

永信

成軌院なるのりと号す

基理もと

伴豫守

法名萬叟ばんそう

善法院ぜんのりと号す

賢信けん

中務大補なかつぶしのたみ

下等祿しもがねと号す

信真のぶまこと

出羽守

信文のぶふみ

上野外

周檜しゅうの

惠光寺めぐみ

心珠

報恩寺

系

又三郎

信昌

五郎 刑尸大捕 没五位下

旗指を相續

幼上野外謀叛の時村礼此法并

家の重宝等焼失寸

永正二年九月十六日卒寸 法名

傑山捨云 永昌院と号寸

信繩

五郎 在京左史 陸奥守 没四位下

旗指を相續

永正四年二月十日卒寸

法名字山邦云 长真院と号寸

信惠

左八郎 油川と号す

信貞

播广守

信友

源左清門尉

信州海野とく村と義清と合戦
此と記す死

系

系之郎

永禄四年九月十日信州文級郡
川中嶋少く越後系虎と合戦の
時とら死

繩美

四郎

信勝のぶ

法幼少猫

系のぶ

吾九郎

信賢のぶ

二郎 松尾と号す

宗存のぶ

飯雲軒

信虎のぶ

五良左京大夫 隆興寺 従五位上

旗楯を相續

天正二年三月五日卒す 法名泰雲たいうん

存乙 大泉寺と号す

信友のぶ

次郎五郎 安藝守

晴信はるのぶ

大膳大丈 信流のぶ也 後四位下

旗指はたしをならびよ弓法きゆうぽうを相續さうぞくす

剃髮とひして法性院大僧正ほふしやうだいにんしやう信玄のぶのぶと号す

元龜げんき四年四月十二日卒す寸五十二歳

惠林寺ゑいりんじと号す

義信よしのぶ

大郎 母ハ之條内大臣のりないだいじんのむすめ

永祿えいりく十年十月十九日卒す寸五十二歳

法名ほふな吾山良云ござんりやううん 東光寺とうかうじと号す

勝頼かつらよ

曰郎

旗指はたしを相續さうぞくす

天正十年三月十一日甲州天目山あまのめやま

少々すくすく自害じがい歳二十七法名ほふな泰山常公たいざんじやうこう

信猪のぶち

大郎

父猪のぶちと曰いく自害じがい寸時すんじ十六歳

龍芳りゆうほう

海野うみのと号ごう寸すん盲目めくらみ

盛信もりのぶ

仁科にのぶ五郎

義久よしかず



信猪のぶち

大郎

父猪のぶちと曰いく自害じがい寸時すんじ十六歳



葛山くさやま十郎

女子

北條きたじょう氏政うじまさの妻め

女子

穴山あなやま梅雷うめらいの妻め

女子

木曾きそ左馬頭さまたがの妻め

信繁のぶしげ

たる助

永禄四年九月十日信州史級郡河内
鴻とら討死年三十七 宗園院そうゐんと号寸

信豊のぶ

たる助

女子

仁科にしか素すめ

信基のぶ

六郎 上野介

信綱のぶ

刑部少輔

道遠軒ちゆうえんと号寸

女子

小笠原掃部右史せうしが妻

女子

仁科五郎にしかが妻

信是のぶ

女子

松尾まつお次郎

宗智

惠林寺此唱食

早世

信實

左衛門大史

兵庫

天正三年五月二十一日之州長條合戦

此河島果しく討死之十二歳法名

一機

信純

義人 右衛門大史

一陳と号す

女子

今川義元の室

女子

穴山伊豆守の妻

女子

飯沼頼重の妻

女子

浦野の母

女子

大井次郎の妻

女子

下條の母

女子

津津平の母

女子

菊亭大納言の室

信俊

河窪新十郎 与那波

甲州滅亡の母

東照大権現よはし 乙女はよりさきこ

州の一人藤濃とみよの河り一とを

大権現の命よりひひく甲州よのれ

まゝ父信實よ属して年とつるれ

後ろに答と救免とて之刑よ

ふとと信實意こりてを河りて

此げくいと我聞

大権現尊とこのとたまふこれと献じて
あ湯まぐ〜藤濃之州小つりてあ
旨と

大権現よ申けし大に信實がなうけ
河を感とたまふと後天正十年
甲州河入ふれ時藤濃よおかせく
信實が子孫とたつとたまふよ〜信
後初め〜

大権現よはく人する時よ十九歳

信後よ〜甲州河窪の地と領する
ゆ〜武田氏と河〜あ〜河窪と
称号す

日十一年

大権現は栗田七九郎康忠と大ねとして
信州の凶徒とたつ〜時信後康
忠よ属して教白寸相本市栗田途
〜是と〜して依久野前山

よりな人をまうけて相ま川あはれ
てかきとお我信俊先陣よりんて
是ををらる味方うつよあはれ
ひうつ信俊一書よ款をうらうり首
級をゆりけ外芦田小屋等所くに
て戦功有り
同十二年尾州也久合我の時信
俊首九級と款より此内之級信俊
是とゆり

同十八年小田原陣小ありし武州岩
付の城をゆりし時信俊平岩と計頭
親吉よ属してゆり恩后曲輪よ入
山口平内を討て首とゆり又款一
人をきりし味方小首とゆり
しむ

大指現こを感しなむひく聖年武
州のうらあそ来地こ子領石とゆり
奥州岩と陣と信を

享和五年せいわご岡原合戦の時御旗おのひし下くだ。
大坂あなごの御陣ごじん。

大指現の侍さむらい。

寛永三年家督けあくと子信雄のぶとに譲ゆづて
隠居いんきょす

同十六年二月十日自死去七十六歳
法名ほふな道二ぢうに

信雄のぶと

自膳じぜん正越せいごあさ 没なげ五位下

母おか正親せいしん町まち三條さんじょうと仲なかつ此こゝにすめ

享和十七年十二歳じふしちさいとく

大指現おほさしげんとあしをりてを仕つかす

大坂あなご此御陣こゝごじん小侍せうさむらい

寛永三年父ちちが讓ゆづと受けく家督けあくを

隠ひそす

同八年

右通院殿の命よりして御使番とあり

同年又 約命よりして御書院番也

継頭とあり 同九年

將軍家の約命よりして後五位下に叙

一 越前守よりして

同十五年 任よりけたゆりて水小姓

継の番頭とあり

同十六日三月廿五日死す二十九歳

法名玄英

信種

七郎右衛門

元和二年

右通院殿とあり

信房

七郎

信宅

七郎

信次

之右衛門

寛永十二年

為軍家を降しし

信通

之郎義

信平

八十郎

女子

女子

信貞

新十郎

母ハ山田十太史重利ニケノ女ムスメ

寛永十六年九歳ムコ

為軍家とありしより父が家督とせば

領地となす

信安 あきら

忠之郎 母ハ上小印

寛永十六年父ちち領地りやうぢと日ひちちたふ

時とき七歳

女子

家紋いへもん割菱わりりやう





